

テディベアーに何着せよう？インド・台湾の交流を通して

金沢市立大徳小学校 清水和久

キーワード 国際交流 英語活動 デザイン力 photoshopelements

J EARN*1 の国際交流プロジェクトの 1 つの「テディベアープロジェクト」に参加して、台湾とインドと交流。お互いにテディベアーを送りあって、そのそのテディベアーの様子を報告しあう。交流を通して、同世代の児童の生活の様子や異文化を理解させたい。

〇はじめに



まずクラスからテディベアーを世界旅行に出してもいい児童を募集。4 体のテディベアーが集まりました。

本当は以前から国際交流プロジェクトをやっている台湾とやりたいと思っていたが JEARN に登録したところ、相手は選べないとのことでお任せした。紹介されたのはインドでした。台湾のほうも別に申し込んであったが紹介されたのはアメリカだった。ところが台湾の相手のアメリカのほうは連絡がつかず、結局 3 カ国ですることになった。

〇各国の状況

①大徳小学校

10月に校内LANが整備、パソコン室に40台と、各教室に2台ずつXP導入。

対象児童 4年生 32人

②台湾

パソコン室に40台 win2000 担当情報担当の先生がいる。

対象児童 17人募集

③インド

学校にはないが近くのセンターにパソコン20台あり。回線はあまり太くない。

対象児童 10人募集

〇先生同士の連絡方法

各自アメリカ yahoo でメールアドレスを取得。(国ごとの yahoo 同士ではメッセージのやり取りができないため) 毎週水曜

日 (日本 p.m.10:00 台湾 p.m.9:00 インド p.m.6:30) 1週間に一度定期的に時間を決めてメッセージで連絡を取り合い、1週間の進行状況を話し合う。1対1だと台湾とはメッセージでのTV会議が可能。インドは回線が細く不可能。

〇インドの取り組み

回線が細く、大きい画像の表示には時間がかかるため、ビデオCDでのやり取りを希望してきた。そのためインドには自己紹介やweb情報もCDにして送ることにした。

〇台湾の取り組み

10月下旬台湾からHAPPYと名づけられたぬいぐるみが届く(なぜかテディベアではなく犬)、台湾の伝統的な民俗音楽のCD付き。そのぬいぐるみを児童の家に順番に回し、家の中でデジカメで撮影。それをwebにあげて台湾にも見てもらうことにする。しかし、ぬいぐるみだけではそれが台湾から来たという特徴がないので、首と一緒に送られてきた台湾の児童の写真をつけることにした。日本から送るぬいぐるみには日本らしい服を着せることにした。

〇日本の取り組み

まず送るためのテディベアーの服のデザインを考える。はじめはラフスケッチをしよう。日本から送るので日本らしいものということや、自分のアピール点なども書いてもらった。

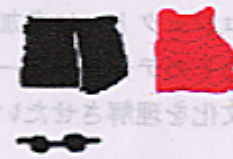
〇デザイン

photoshop elements のレイヤー機能を使用

① 原版の作成

テディベアーをまずデジカメで撮影。これをデザインの原版とする。

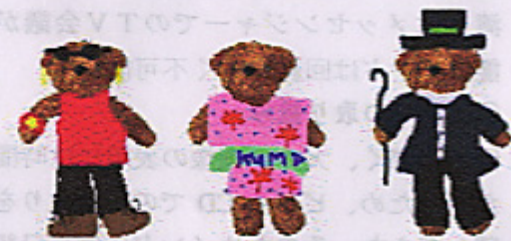
② 服のデザイン



服を1枚描くごとに新しいレイヤーを開いて描く。そうすることで服1枚ずつのデータを作ることができる。

③ 他の人のデザインも利用する

他の人がデザインしたいろいろな服も着せて新しい服装を作る。



④ 投票でデザインを決定

インドと台湾に行くテディベアーの服装を決める。日本的なものに人気があった。

⑤ 服の作成



保護者の方に協力してもらって作っていただく。はからずも投票で選ばれた児童の保護者が作ることとなった。

○ 自己紹介カード・ビデオの作成

自己紹介カードに入れたらいいことを話し合う。自分の名前、好きなもの、嫌いなもの、趣味、将来の夢などに決まった。わからない単語は絵で表すことにした。

① My name is ○○

② I like ○○

③ I don't like ○○

④ My hobby is ○○

⑤ I want to be ○○



また、台湾は漢字圏であるので漢字も積極的に使った。ビデオはその自己紹介カードを元に読む形で行った。なるべく学校の様

子がわかるようにするため、理科室や図書室などで特別教室で4、5人ずつビデオ撮りを行った。

上記の表現は④⑤以外は英語活動で扱った題材であり、比較的スムーズにいうことができた。

○ 台湾の取り組み第2弾



現在台湾ではデザインを検討中で、手描きで描き始めている。ソフトはペイントしかないがテディベアーに着せる服をパソコン上で描いている。

○ 今後の展開

・ 同じテディベアーでのデザイン

3つの学校で共通のテディベアーを元にいろいろな服をデザインして比較してみたい。また、外国の児童のテディベアーのデザインに他の国の児童のデザインを付け加えたりできると楽しい。

・ 共同でwebページの作成

3つの国で分担して共同でテディベアーの服装についてのページを作成する。

・ e-palのサービスの利用

教師を通しての交流だけでなく、翻訳サイトなどを利用した文通を行っていく。

・ ビデオファイルの交換

自己紹介や学校紹介などを英語活動の一環として行い、MPGファイルなどにしてしてメールなどで交換する

○ まとめ

英語が国際語であるとともに、パソコンも1つの国際語である。動画、静止画 website などを通して同じ世代同士の交流を行っていききたい。

*1 JEARN <http://www.jearn.jp>

金沢市立大徳小学校清水和久
e-mail kshimizu@spacelan.ne.jp